

平成31年1月10日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

一般財団法人
北海道国際交流センター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 国際協力フェスタ2018「わたしたちがSDGsです」

企画実施概要： 相談ブース設置し、国際協力活動について広く市民の方に知ってもらい参加する機会を市民に提供する。国内外にかかわらず社会的な課題を一緒に考える機会をもつことを目的して行った。

参加人数は、NGOや一般を含めて約1,100名

2 出張者氏名 池田 誠

3 依頼元／主催団体名 北海道NGOネットワーク協議会

4 実施予定日時 平成30年12月15日（土） 11:00～17:00

5 実施場所 札幌駅前地下歩行空間（北海道札幌市）

6 実施報告 国際協力に関心のある人が多く集まり、活動の悩みや運営についての相談にのることができた。また、地下歩道ということで、一般の人たちも何が行われているのかと、立ち寄る人も多く、NGO活動のPRにもつながった。また、統一テーマをSDGsにしたことで、企業や自治体の人たちも関心をもって相談に訪れた。特に、北海道の参加者ということもあり、環境からSDGs、そして国際協力への話が進むこともあり、NGO活動を広める有意義な時間となった。

7 写真



相談の様子



イベントの様子

以上

平成31年1月10日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

認定NPO法人 IVY

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名: ワンワールドフェスタ2018

企画実施概要: ①実施内容
JICA岩手デスクからの紹介により実施。
スマートフォンの生産工程で起きている課題を知るとともに、持続可能な開発目標(SDGs)について知り、自分達にできることを考える

②対象者および参加人数
一般市民対象。参加者 20人

2 出張者氏名 小笠原 直子

3 依頼元／主催団体名 主催: (公益)岩手県国際交流協会

4 実施予定日時 平成30年12月8日 (土) 11:10～12:50

5 実施場所 いわて県民情報交流センター 5階 ギャラリースペース(岩手県盛岡市)

6 実施報告
国際交流イベント内で実施したことで、国際協力、交流に関心の高い方々が集った。他方で、イベント内には多様なブースが出展しており、参加者の確保が難しかったことから、主催者と協議の結果、来年度からはイベント内ではなく、別日にワークショップを開催する方向でまとまった。
参加者の感想
・スマホを取り巻く問題の根源は「貧困」であるため、これから自分達が「貧困問題をどう解決していくか」が重要だと感じた。
・普段は出来るだけ安価な物を購入しようと思っていたが、その者が作られている背景を知ることが大切だと思いました。
・自分達が使っている物でもグローバル化によって様々な国が関わっていることを知り、世界情勢も関係しているということが分かった。

7 写真

	
ワークショップ開会の挨拶の様子。	スマホの原材料である功績の採掘現場で起きている問題に関するDVD鑑賞後、意見交換を行う参加者。

(写真1)

(写真2)

以上

平成31年1月10日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

認定NPO法人IVY

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 難民を知るワークショップ

企画実施概要： ①実施内容
福島県インターアクトクラブ所属の高校生に対して、2つの会場で難民を知るワークショップを行った。

②対象者および参加人数
福島県内インターアクトクラブ所属高校生89人

2 出張者氏名 安達 三千代・阿部 真理子

3 依頼元／主催団体名 国際ロータリー第2530地区インターアクトクラブ

4 実施予定日時 平成30年12月9日(日)14:45～16:45

5 実施場所 いわきグランパークホテル パネックスいわき(福島県いわき市)

6 実施報告
参加者アンケートから
・キャンプの話の中で「料理は自分で作る」とありました。なんでも助け
という訳ではなく、自立を育むような姿勢で支援を行なっているんだ
なと思いました。もやとしていた「難民の定義」や「難民の現状」が
はっきりしました。
・国際協力に自分も携わりたいと思った。
・難民がキャンプの外に出られるような環境を作ることが大切だと思
いました。
・難民に認定されるためには、きちんとして理由がないといけないのだ
ということ、初めて知りました。

7 写真



キャンプ内での難民の生活について
フォトランゲージを行なっている場面

(写真1)



引率の教員もワークショップに参加

(写真2)

以上

平成31年1月10日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

認定NPO法人 IVY

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 難民を知るワークショップ-ミャンマー避難民編-

企画実施概要： ①実施内容
ミャンマー避難民キャンプの現状、課題についてワークショップを通じて考え、ODA資金を活用して実施しているミャンマー避難民支援事業(JPF事業)を行った。

②対象者および参加人数
一般市民対象。参加者 25人

2 出張者氏名 小笠原 直子

3 依頼元／主催団体名 東北学院大学 地域共生推進機構

4 実施予定日時 平成30年12月15日（土） 13:00～15:00

5 実施場所 東北学院大学土樋キャンパス（宮城県仙台市）

6 実施報告 東北学院大学の学生を中心に、高校生から一般の方まで幅広い年齢層の方が参加されたことで、難民ワークショップ内でも様々な意見が出されていた。
参加者の感想
・実際に難民になったつもりでワークショップに参加し、想像しきれない部分が沢山あり、これからもっとミャンマー避難民のことを調べていきたいと感じた。
・他の難民の現状についても知りたいと感じた。
・人として生きる上での不安を解消してあげること、将来希望をもてる仕

7 写真



難民の定義について説明するNGO相談員。

(写真1)



クトゥパロン難民キャンプの写真から読み取れること、疑問点を話し合う参加者。

(写真2)

以上

平成31年2月18日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
難民を助ける会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名:

東京外国語大学での講演

企画実施概要:

①実施内容

東京外国語大学学部3年生および留学生を主な対象とする「国際協力論」の講義にて、NGOの概要、強みや弱みなどの特徴について講義を行った。

②対象者および参加人数

対象:東京外国語大学学部生・留学生 約40名

2 出張者氏名

栗村友美

3 依頼元／主催団体名

東京外国語大学

4 実施予定日時

平成30年12月21日（金） 12:40～14:10

5 実施場所

東京外国語大学府中キャンパス(東京都府中市)

6 実施報告

・東京外国語大学学部3年生および留学生を主な対象とする「国際協力論」の講義にて、NGOの概要、国際機関などの他アクターと比較しての強みや弱み、当会がザンビア共和国で実施している事業の概要について、質疑応答も含めて90分の講義を行った。

・NGOについては学んだことがなかった学生も多く、日本のNGOが置かれた状況について理解を深めることができた、将来の就職先を検討するうえで参考になった、との感想が聞かれた。また、NGOの強みが柔軟さや、受益者に最も近い距離で事業実施をすることであるとよく理解できたこと、一方で、ひとつひとつのNGOの規模は小さいことが多いので、民間企業など他のアクターとの連携を強化するべきではないかと感じた、との感想もあった。

・授業後には、NGOに就職したいと考えているという学生1名から、どのようなキャリアを経てNGOに就職するのがよいか、民間企業で経験を積んでからでも遅くはないか、との質問を受けた。当会では多様な職務経験を持つスタッフが活躍しており、必ずこの経験を積むべきだといった回答はないが、新卒採用を行うNGOは非常に少ないため、民間企業で一般的なビジネススキルやマナーを身に付けてからNGOに来ることは有益だろうと回答した。当会では企業を退職後に入職する職員もあり、どのような道をたどっても決して遅すぎることはないという回答した。

7 写真



授業の様子



授業の様子

(写真1)

(写真2)

以上

平成31年2月18日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人 難民を助ける会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名: 国連フォーラム関西イベント「シリア紛争と人間の安全保障」への登壇

企画実施概要: ①実施内容

第一部は出張者のほか、JICA研究所、シリア支援団体「サダーカ」職員による講演、第二部は他のシリア支援活動を行う「Piece of Syria」職員も加わり、参加者からの質問を踏まえてのパネルディスカッションとの構成であった。出張者からは、トルコにおけるシリア難民の現状や難民支援活動について紹介した。

②対象者および参加人数

対象:一般参加者及び国連フォーラム関西会員 参加人数:55名

2 出張者氏名

小田隆子(支援事業部プログラムコーディネーター)

3 依頼元/主催団体名

国連フォーラム関西

4 実施予定日時

平成30年12月22日 (土)

17:00 ~20:00

5 実施場所

関西学院大学梅田キャンパス(兵庫県神戸市)

6 実施報告

・イベント直前に報道された、トランプ大統領による米国のシリアからの撤兵発言が参加者の関心の焦点となっていたせいか、今後のシリアでの平和構築にとって何が一番必要かを問われた。これについては、対話、他者理解(相互理解)などの重要性を説明した。

・①トルコがシリア北部のクルド人をどう思っているのか、②アラビア語を母語とするシリア人難民とトルコ語を母語とするトルコ人のコミュニケーションはどのように取れているのか、との質問があり、①に対しては、クルド人については、トルコ国民の約25%がクルド系であること、クルド武装勢力PKKに対しては強硬な対応を実施しているが、クルド人はトルコ人に対し敵とみなされてはいないことを説明した。②に対しては、トルコの中でもシリアと国境を接する南東部ではアラビア語を解するアラブ系、クルド系トルコ人が多い特殊性について説明した。また当会ではシリア人を現地職員として雇用し、難民とは現地職員を介してコミュニケーションを取っていることを紹介した。このほか当会の活動の中でシリア難民に対しトルコ語学習支援を行っていることも紹介した。

・紛争が長期化している理由についての質問があり、外国勢力などシリア紛争に関わるアクターが非常に多いことがこの紛争の長期化、解決の困難さにつながっているという点を出張者を含め全てのパネリストが指摘した。

7 写真

	
トルコにおけるシリア難民の状況について説明する小田隆子	シリア難民に必要な支援を当会の活動を一つの事例として紹介しつつ説明した

(写真1)

(写真2)

以上

平成31年2月18日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
開発教育協会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名：**第10回ユネスコスクール全国大会持続可能な開発のための教育（ESD）研究大会
- 企画実施概要：**
- ①実施内容
地域や学校で、ESDの推進に取り組んでいる団体や個人が参加するイベントで、分科会「ESD／SDGsを学ぶための教材をどう作成するか」に参加し、ESDや開発教育、国際理解教育に関する提案や相談対応を実施する。
来場者（全国の教員や組織が中心）からのESDや開発教育に関する質問だけでなく、開発教育や国際理解教育に関する教材・資料等の照会にも対応する。
 - ②対象者および参加人数
ユネスコスクールや全国のESD関係者ほか 約700名

- 2 出張者氏名** 岩岡由季子
- 3 依頼元／主催団体名** 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会
- 4 実施予定日時** 平成30年12月8日（土） 10:00 ～17:15
- 5 実施場所** 横浜市立みなとみらい本町小学校（神奈川県横浜市）
- 6 実施報告**
- ・ESDやSDGsを学ぶための教材に興味がある教員など約100名を対象に、2回に分けて開発教育協会の事業や当会の教材の紹介を行った。特に教材については、対象学年や活用方法などを説明し、質問にも対応した。
 - ・資料コーナーにパンフレットや教材見本を置き、開発教育や教材の活用方法に関する質問や相談に対応した。

7 写真

	
事業や教材紹介・質疑応答の様子(1回目)	事業や教材紹介・質疑応答の様子(2回目)

(写真1)

(写真2)

以上

平成31年1月9日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
名古屋NGOセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 国際協力カレッジ2018

企画実施概要： ①実施内容：「ボランティア・インターンマッチング展」にて相談対応および国際協力分野でボランティアやインターンをしたい人と国際協力団体とのマッチングを行った。

②対象者および参加人数：学生、社会人など約70名

2 出張者氏名 堀川絵美

3 依頼元／主催団体名 JICA中部（事務局：名古屋NGOセンター）

4 実施予定日時 平成30年12月22日（土） 10:00 ～ 17:00

5 実施場所 JICA中部なごや地球ひろば（住所：愛知県名古屋市）

6 実施報告 <相談内容（一部）>
・将来どのように国際協力に関わればいいのか。
・日本語教師として海外で働くにはどのようなキャリア形成があるか
・仕事をしながらボランティアをしたい。岐阜のNGOを紹介してほしい。
<参加者の感想>
・国際協力には多様な関わり方があると知ることができた。
・今まで1つの活動分野に関心があったけど、他の分野にも関心を持ち視野が広がった。

7 写真



ゲストスピーカーが自身のキャリアを紹介



ブース相談の様子

（写真1）

（写真2）

以上

平成31年2月18日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

公益社団法人
日本国際民間協力会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： ふしみんな祭り2018

企画実施概要： ①実施内容：京都市伏見区にある伏見青少年活動センターを利用される団体や青少年が集まり、互いに情報交換や連携を深めるためのイベント。このイベントの中の国際協力トークキングカフェにて、NGO相談員ブースを出展した。
②対象者および人数：約100人

2 出張者氏名

大豊盛重

3 依頼元／主催団体名

公益財団法人京都市ユースサービス協会（伏見青少年活動センター）

4 実施予定日時

平成30年12月8日（土） 13:00-16:30

5 実施場所

京都市伏見青少年活動センター（京都府京都市）

6 実施報告

シリア難民の人数が、伏見区と比較した説明はわかりやすかった。

NGOや国際協力の業界で働くことについて、具体的な話を聞くことが出来て良かった。

7 写真



トークセッションでNGOの活動に参加することについて解説している様子(大豊)

(写真1)



NGO相談員ブースにて、難民問題について相談に対応している様子(大豊)

(写真2)

以上

平成31年2月18日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
関西NGO協議会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名:

高校生を対象とした国際協カイベント「ワンフェス for Youth 2018」における相談員ブース出展と国際協力全般に関する相談対応

企画実施概要:

①実施内容:高校生向け国際協カイベントの一プログラムとして、来場者(主に高校生、高校教員、NGO関係者)から、国際協力に関するキャリア、授業プログラム、出張講義等に関する質問・相談に対応する。さらに、ブース付近を通行する不特定多数の来場者へのチラシの配布等を通して、相談員制度の広報を行う。

②主に関西二府四県の高校生・高校教員1,200人が参加(昨年度統計)。相談員ブースでの相談対応件数は、20件程度を想定。

(1)(特活)関西NGO協議会 松岡氏

(2)(特活)開発教育協会 伊藤氏

(3)(特活)アイキャン 三矢氏

(4)(公社)日本国際民間協力会 大豊氏

(5)(公財)PHD協会 坂西氏

(6)(特活)ピースウィンズ・ジャパン 石田氏

2 出張者氏名

3 依頼元/主催団体名 ワンフェスユース運営委員会・関西NGO協議会

4 実施予定日時

平成30年12月24日 (月)

9:30~16:30

5 実施場所

大阪YMCA(大阪市西区)

6 実施報告

2018年ワンフェスユースのブース会場にて「NGO相談員ブース」を設置し、近畿ブロックの3団体と全国から3団体の応援参加をいただき、合計6団体でシフトを組み各時間帯において相談員2人が相談対応を行い、1名がブース活用の呼びかけを行った。プログラム全体の参加者総数は高校生を中心とし、大学生、高校教員、NGO関係者、一般参加者を含め延べ6,000人(概算)、ブースを訪れた相談者は51人であった。また、相談対応件数はおよそ70件であった。高校生主体の国際協カイベントであることから、主に高校生から国際協力分野でのキャリア形成に相談が集中した。また、高校教員からは、国際協力や開発教育・国際理解教育に関する相談を多く受け付けた。
(内訳:NGO7人、教員8人、学生33人、社会人1人、その他2人)

7 写真

	
相談対応風景	当日のブース会場の様子

(写真1)

(写真2)

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 東北学院高等学校 神戸修学旅行 国際協力についての講演

企画実施概要： ①実施内容
修学旅行で神戸を訪れる東北の高校生に対して、国際協力と日本のNGO活動、防災について知ってもらう講義を行う。

②対象者および参加人数
高校生2年生 25名

2 出張者氏名 八木 純二

3 依頼元／主催団体名 ESD推進ネットひょうご神戸

4 実施日時 平成30年12月6日 (木) 10:30～12:00

5 実施場所 神戸市青少年会館
(兵庫県神戸市)

6 実施報告 ESD推進の地域拠点の一つ「ESD推進ネットひょうご神戸」より依頼があり、修学旅行で神戸を訪れる東北学院高校の生徒に対して、防災の観点から国際協力を知ってもらう講演を行った。また、外務省とNGOとの連携について言及し、外務省NGO相談員制度のPRを行った。

ESDを学ぶ東北学院高校2年生を対象に、阪神・淡路大震災を経験した神戸の国際協力としての防災の取り組みについて講演した。東日本大震災を経験した生徒たちにとって、防災というテーマは身近なものであり、強い関心を持っていた。

当会が復興支援に従事しているネパール大地震(2015年)を中心にアジア諸国の状況について講演を構成した。参加生徒には用意した資料を配布、被災地の写真を多く見せるプレゼンテーションを中心に、わかりやすくなるように心がけた。

参加生徒からは、アジア諸国では防災意識がまだまだ低い状況や、日本の防災の取り組みが、それらの国々でも有効であることを理解したなどの感想があった。

また、NGO相談員についてもPRすることができた。

7 写真

	
(キャプション) NGO相談員制度及び外務省との連携について説明しているところ	(キャプション) 会場の全景

(写真1)

(写真2)

以上

平成30年12月11日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

公益財団法人PHD協会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名：井吹台中学校での国際協力の講演
- 企画実施概要：①実施内容：「国際協力とアジアの農村の現状」について映像を交えながら講演を行った。
- ②対象者および参加人数：井吹台中学校2年生約390名

- 2 出張者氏名 芳田 弓生希
- 3 依頼元／主催団体名 神戸市立井吹台中学校
- 4 実施予定日時 平成30年12月11日（火） 8：50 ～ 9：35
- 5 実施場所 神戸市立井吹台中学校（兵庫県神戸市）
- 6 実施報告 国際交流を推進している学校であるため、生徒たちがより深くアジアの途上国の現状や抱えている課題について写真を活用し一例にあげたミャンマーについて、生徒からは「写真を見ることができて、ミャンマーの生活と文化についてよくわかった」、「ミャンマーは多民族国家で内戦があり親と離れ離れになって暮らしている子どもたちがいることがわかった」などの感想があった。

7 写真

	
NGO相談員制度についての説明をし、学校関係者・学生にも活用してもらえる旨を伝え (写真1)	アジアの国の現状と課題についてミャンマーを一例にあげて説明をする。 (写真2)

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名:** 徳島大学での国際協力についての2件の講演
企画実施概要: 【講演1】講座「多文化共生まちづくり『生活者としての外国人』のための日本語教育」
 【講演2】講義「異文化交流から学ぶグローバル化」
 ①実施内容
 【講演1】 高校生から70歳ぐらいまでの多様な参加者にまちづくりと外国人共生の視点で国際協力の考え方についてレクチャーした。
 【講演2】 留学生を含む学生に異文化としてネパールのダリット差別について講義を行った。また国際協力については参加型WSを実施した。
 ②対象者および参加人数
 【講演1】 講座履修者及び一般参加者 28名
 【講演2】 教養教育学院 日本語教育講座履修者 36名

2 出張者氏名

坂西 卓郎

3 依頼元／主催団体名

徳島大学教養教育学院 教授 Gehrtz 三隅 友子

4 実施予定日時

平成30年12月11日（火） 18:00～20:00
 平成30年12月12日（水） 10:25～11:55

5 実施場所

【講演1】徳島大学 地域創生国際交流会3F302教室（徳島県徳島市）
 【講演2】徳島大学 常三島キャンパス6号館201教室（徳島県徳島市）

6 実施報告

【講義1】 上記の通り多様な参加者で、国際交流協会、JICA国際協力推進員、新聞記者の方なども居られた。外国人共生と国際協力というテーマに関心が高いことが伺え、当初の予定13名を大幅に上回る参加者数であった。実際に質問も多く、熱気溢れる講座となった。

【講義2】 「将来、日本語教育を志す学生に多様な国際社会の課題とそれらを取りなく日本の国際協力について学ぶ」という目的を達成すべく、参加型WSで国際協力を考える時間を持ち、その後にネパールのダリット差別という事例のレクチャーを行った。学生からの反応としては「全く知らなかった」、「国際協りに触れたことは無かったので良い機会だった」というコメントをいただいた。また留学生も多く、日本のNGOと外務省の活動を知ってもらえるよい機会となったと思われる。

7 写真



(キャプション) 講座1 講座「多文化共生まちづくり『生活者としての外国人』のための日本語教育」の受講生たちと

(写真1)



(キャプション) 講座2 講義「異文化交流から学ぶグローバル化」の様子

(写真2)

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 神戸親和女子大学での国際協力と地域との関わりについての講演

企画実施概要：

①実施内容

- ・国際協力の概要と地域との関わりについての講義
- ・国際協力の事例としてアジアの農村での活動
- ・NGO相談員制度の説明

②対象者および参加人数

総合文化学科「国際文化概論」授業履修者 一年生56名

2 出張者氏名 坂西 卓郎

3 依頼元／主催団体名 関西学院大学 教育学部

4 実施予定日時 平成30年12月14日（金） 9:00 ～ 10:30

5 実施場所 神戸親和女子大学（兵庫県神戸市）

6 実施報告

上記の対象に国際協力の概要と地域との関わりについて講義を実施した。会場を教室ではなくラーニングコモンズを提供していただいたので、テーマ毎に参加者に投げかけながら対話型で授業を進めることができた。具体的には「国際協力活動とはどういう活動があるか？」ということ問いかけながら、学生自身に考えてもらう時間を設けた。また地域と国際協力については神戸と難民受け入れの歴史などを紹介した。

学生からの感想としては「国際協力に興味は持っていたが、初めて具体的に知ることができ、実際に関わってみたくなった」というコメントが寄せられた。学生は卒業後、教員になる方も多いとのことで、国際協力やNGO、外務省の活動を知っていただくよい機会になったと思われる。

7 写真



(キャプション)ラーニングコモンズにての授業風景

(写真1)



(キャプション)国際協力と地域とのつながりを紹介している様子

(写真2)

以上

団体名

特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名:

「国際貢献」・「国際的な支援救助活動」に係る講演
その意思に強い実行力を！～ピースウィンズ・ジャパンの活動～

企画実施概要:

①企画内容
ピースウィンズ・ジャパンの活動の紹介を交え、紛争や災害の現状や、緊急支援の活動
内容などの紹介、さらにはNGOに興味がある学生へのアドバイスなどを行う。

②参加者数
広島県立油木高等学校 2年生 65名

2 出張者氏名

田邊圭

3 依頼元／主催団体名

広島県立油木高等学校

4 実施日時

2018年12月12日（水） 14:25-15:15

5 実施場所

広島県立油木高等学校（広島県神石郡）

6 実施報告

弊団体が本部を置く神石高原町で唯一の高等学校、広島県立油木高等学校の普通
科、産業ビジネス科の2年生65名に対し現在の紛争における国内避難民や難民の数
や、災害における種類別被災数、被災者数などの現状を紹介したり、弊団体の活動紹
介を踏まえたりしながら、国際協力について、緊急支援の在り方などについて紹介した。
神石高原町でも西日本豪雨の際の被害があり、いまだに道路が寸断されている箇所
や住居の被害なども多く、学生たちも体験した災害もあったことから、周辺地域の支援
活動からイラクなどの難民支援などを行っていることなどを知り、自分たちの学んでいる
中山間地域から国内外の緊急支援を行っている団体があるということにとっても興味を
持ってもらうことができた。

7 写真

	
講演の様子	講演の様子

(写真1)

(写真2)

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名:

中央大学経済学部「法学(国際法概論)」内「難民に関わる国際法とその実際」

企画実施概要:

①企画内容

一般教養科目として「法学(国際法概論)」を受講する学生を対象に、講話を行う。
具体的には元駐在員より、ウガンダにおける南スーダン難民支援について、例としてPWJの活動の紹介とウガンダにおける先進的な難民条約の国内受容方針について、講義を行う。

②参加者数

中央大学学生および教員 25名

2 出張者氏名

竹中奈津子

3 依頼元／主催団体名

中央大学経済学部「法学(国際法概論)」担当 兼頭ゆみ子非常勤講師

4 実施日時

平成2018年12月13日 (木)

15:00～16:30

5 実施場所

中央大学多摩キャンパス(東京都八王子市)

6 実施報告

①ウガンダへの南スーダン難民流入について

南スーダンの歴史、2016年7月の南スーダン内戦およびそれ以降の難民の流出状況について、特に最大のホスト国であるウガンダへの流入状況について説明した。また、ウガンダのユニークな難民受け入れ政策につき、隣国ケニアと比較しながら紹介した。

②ウガンダにおける当団体の難民支援活動について

2016年12月に開始した当団体のウガンダ事業につき、南スーダン難民を受け入れる居住地区の様子、事業内容(井戸建設、世帯トイレ・シェルター建設、衛生普及における日本企業との協働等)につき、写真を多用しながら紹介した。

③質疑応答

アフリカの僻地での生活や事業を立ち上げるうえで苦労したことは何だったか、どのような時にやりがいを感じたか、今後必要とされる事業はどんなものか、現地で活動している団体には他にどのようなものがあったか、等の質問があった。参加者の中にアフリカに行ったことがある人はおらず、NGOによる支援活動や難民の実際状況だけでなく、アフリカで生活すること自体にも関心を寄せてもらえた。

7 写真

	
講演の様子	講演の様子

(写真1)

(写真2)

以上

平成31年2月18日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
えひめグローバルネットワーク

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名：

企画実施概要：

①実施内容

高校生を対象に、外国人への差別や難民問題を考えつつ、ESDやSDGsなど、持続可能な社会づくりのための世界規模の取り組みを紹介するとともに、国際協力活動の事例を紹介した。また、国際協力や開発教育についてより詳しく学ぶために、NGO相談員制度を活用することを呼びかけた。

②対象者および参加人数

高校生、教員 約570名

2 出張者氏名

竹内よし子

3 依頼元／主催団体名

愛媛県立今治工業高等学校

4 実施日時

平成30年12月7日（金）

13:50 ～ 15:40

5 実施場所

愛媛県立今治工業高等学校 第一体育館（愛媛県今治市）

6 実施報告

参加者からの声

①いかに自分が世界を狭くみていたのかがよく分かりました。文化が違うからこそ学ぶことも多く、新たな発見があるのに、マイナスの部分しか見てなかったことを知った。これからは日本には多くの外国の方が来るので、日本に來られた外国の方が不自由を感じないように、そして日本のことをより知ってもらえるようにまず自分が行動し、異文化を共有していきたい。

②私は6850万人も難民がいるなんて初めて知ってとても想像ができませんでした。空腹で餓死している人が4万人もいることも想像できませんでした。自分たちが過ごしている毎日は当たり前のことではないことを改めて思いました。

③毎日起きていることは誰も新聞にしないという話にドキッとした。一日を大切にしたいと思った。まだまだ世界の事情を知ることができていないと思った。SDGsという目標などについて学び、いろいろな社会問題などに取り組んでいかないといけないのだと分かった。

7 写真



講演の様子

(写真1)



講演の様子

(写真2)

以上

平成31年2月18日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
沖縄NGOセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名：

SDGsとNGOの役割

企画実施概要：

①実施内容

- ・SDGsとは何か？概要説明
- ・SDGsがなぜ日本および地域で必要なのか
- ・SDGsとNGOの役割

②対象者および参加人数

キリスト教学院大学学生 27名

2 出張者氏名

上原 真紀

3 依頼元／主催団体名

沖縄キリスト教学院大学

4 実施予定日時

平成30年12月19日（水）

12：00 ～ 15：30

5 実施場所

沖縄キリスト教学院大学（住所：沖縄県西原町）

6 実施報告

今回、出張先がキリスト教学院大学の「NPO・NGO実習」の授業という事もあり、NPO・NGOの役割とSDGsをつなげて説明をすることができた。県内NPO・NGOの活動がSDGsのどの目標とつながるか考えることにより、より身近にSDGsを感じてもらえた。「実習先のNPO・NGOもたくさんの課題解決のための活動でSDGsに関わっていると思った」といった感想を聞くことができ、企画内容の目的にしていた”SDGsおよびNGOの取り組みに対する理解を深める”を達成できたのではと考える。

7 写真

	
SDGsとNGOの役割について説明している様子	キリスト教学院大学学生と一緒に

(写真1)

(写真2)

以上